平成 20 年度日本環境安全事業ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会
議事要旨

１　開催日時　　平成２１年３月３１日（火）　１５：００～１６：５０

２　開催場所　　ホテルアジュール竹芝１６Ｆ　曙の間

３　出席者委員　永田委員長、伊規須委員、岡田委員、田辺委員、長谷川委員、原口委員、細見委員、益永委員、宮田委員、森田委員、若松委員

４　議　題〈公開〉

（１）平成２０年度における各部会の取組状況について

日本環境安全事業（株）ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会に置いている６つの部会の取組について、資料に基づき説明。

主な意見、質問等は次のとおり。

・　作業安全衛生部会で受けた作業安全に関する５事業の状況報告では、豊田事業における改善が顕著で血中のＰＣＢ濃度も改善が見られるという非常によい例があった。東京事業については、改善すべきポイントが見えてきているという状況であった。

（２）平成２０年度における各事業の進捗状況について

日本環境安全事業（株）の稼働中の５事業の進捗状況、最近の主なトラブル等及び北九州第２期事業の進捗状況について、それぞれ資料に基づき説明。

主な意見、質問等は次のとおり。

・　「廃アルカリ水の誤払い出し」のトラブル事例への対策としてはドラム缶の色を変えるなど目視で区別できるようにするとよい。

・　「ヒヤリハットに関する取組」について、①北九州事業所の報告件数が少ない理由は何か。②豊田事業は７月だけ報告件数が多いが他月は低い理由は何か。③上がってきた報告への対策、事例整理の状況如何。

・　「各事業の処理実績」については、台数ベースに比べＰＣＢ分解量ベースでは処理進捗率が低くなるがその理由は何か。また、計画量に対する進捗度合が低いが処理期限までに処理可能か。

・　トラブルに対する対応の考え方を教えていただきたい。例えば、「排出水中の窒素含有量の下水道法排除基準値超過」のトラブル事例への対応について言えば、粉末活性炭を増やすというエンドパイプ的な対応をしているが、むしろ、DMI が増えた理由や、設計時に粉末活性炭注入量 1%でうまく行くとなっていたのか否かが重要と認識。

・　「ダイオキシン類の排水中濃度の維持管理値超過、排気中濃度の自主管理目標値超過」に関する大阪事業でのトラブル事例については、Co-PCB が主なものだったのか。Co-PCB が主なものであった場合、ＰＣＢ濃度は検出下限以下のレベルだったかを確認したい。また、作業着の洗濯排水が原因であれば、他事業でも同様なので注意が必要。

・　事故があったときは、産業医に定期的な報告し、医学的なアドバイスをもらっていただきたい。

・　北九州第２期施設におけるプラズマ炉内のスラグの温度は何度か。今後同施設の大型化は検討するのか。

（３）「大型トランス等に係る現場解体作業について」の報告書について

同報告書について、資料に基づき説明。技術部会の副主査（細見委員）からあった意見は次のとおり。同報告書は了承。

・　報告書案については、問題点に対する改善もなされておりこの案でよい。密閉容器の「分析手順」によれば、ＥＣＤ－ＧＣで分析するとのことであるが、ＰＣＢか絶縁油かのピークの見分け方を知見のある中野委員や篠原委員に相談し検討いただきたい。

（４）その他

・　できるだけ、安全な処理を実現しつつ運転廃棄物量を減らす努力が必要。この件については、監督官庁（環境省）に積極的に情報提供した方がよい。

５　問い合わせ先

日本環境安全事業株式会社 事業部　事業企画課

ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会事務局　担当：梅野

Tel：03-5765-1919　Fax：03-5765-1940